

令和7年度第3回清瀬市社会教育委員の会議 議事録

令和7年度第3回清瀬市社会教育委員の会議が令和7年9月30日に開催された。
出席委員、議事の概要は次のとおり。

日 時 令和7年9月30日（火）午前10時から12時00分まで

開催場所 清瀬市役所本庁舎 2階 会議室2-4（対面開催）

出席委員 （対面参加）
倉持議長、西田委員、渋谷委員、玉置委員
（オンライン参加）
松山委員

欠席委員 齊藤副議長、永嶋委員

事務局 生涯学習スポーツ課 古川副参事、西原係長、成田

次第1 開会

事務局より

- ・開催方法の確認（対面開催、松山委員はオンラインで参加、齊藤副議長、永嶋委員は欠席）
- ・資料の確認

2 議題

- （1）清瀬市不登校支援ネットワーク・フォーラムについて
 - ・不登校支援のネットワークづくりについて（提言まとめに向けて）
- （2）清瀬市生涯学習基本方針の更新について

3 報告等

4 閉会

（倉持議長）

令和7年度第3回清瀬市社会教育委員の会議を始める。

本日の議題は二つ。一つ目は、先日行った清瀬市不登校支援ネットワーク・フォーラムについて。こちらについて事務局より説明をお願いします。

(事務局)

東京学芸大学と協力した清瀬市不登校支援ネットワーク・フォーラムを無事に開催することができた。参加者数は全体で33名。どの方からも有意義であったとアンケートでお答えをいただいた。事務局として実施報告をまとめたのでご覧いただきたい。質疑応答やグループ発表のコメント、登壇者のコメントについても議事録としてまとめ、アンケートの結果と参加者からのコメントなどもこちらの一覧にまとめてある。

また、今回の委員の皆様の任期が10月末を以て一区切りとなることから、兼ねてよりお話をさせていただいた通り、ネットワークづくりのためのフォーラムを開催したことによって、今後どのようなことを考えられるかということについて、まとめていきたい。

本日は提言のまとめに向けて、改めて、委員の皆さんからどうまとめていくのかということを議論したい。

(倉持議長)

皆さんにご協力いただき、フォーラム当日も会場にぴったりの人数の方々にご参加いただいた。活気があるぐらいの丁度良い人数で、活発な意見交換ができたと思っている。委員の皆さんから、先日のフォーラムのご感想と提言まとめに向けてご意見を伺いたい。

(渋谷委員)

フォーラムを通して、とにかく一番良かったと思うのは、グループディスカッションの中で様々な方、色々と立場が違う方と話し合えたこと。子供たちのほっとする場所、子供たちの安心安全のことについて、色々と話し合えたことが良かったと思っている。

学校だけだとやはり狭い視野で取り組み、色々と関係機関などがあるので、そのようなところへ行くのだが、その中で、違った視点から子供たちの様子をこのようにして見守っているとか、子供たちとの大切な関わり方というところについて、学校もそうなのだが、社会の中でこのようにして関わっている、そのような視点で見ていくということに触れ、学びが多く大変良かったと思っている。

学校に戻って職員に、子供たちとの信頼関係を築くことがやはり大事で、そのためには色々と褒めたり、信頼関係を築くように、話をよく聞いてあげたりなど、基本のことなのだが、そのようなことをしっかりとやっていきましょう、社会もそのようにしていますよという話をさせていただいた。本当に学びの多いフォーラムだったと思う。

(西田委員)

私も半分以上が知った顔ではあったが、やはり初めてお会いする方々とのグループディスカッションがとても有意義だった。メンバーを変えて、また別の方とも話してみたいと思った。グループ発表の中でもいくつか出ていたと思うが、保護者を支える仕組みや親子関係形成の構築というところで、やはりここは基本だと改めて痛感した。私自身が関わっているNPOでも、気持ちを新たにした時間だった。グループディスカッションをまたやりたい。人数が少なくても良いので、色々な方と話すのは色々な気づきがあり、素晴らしいと思った。

(玉置委員)

アンケートの結果にもあるが、様々な分野の方の意見で、それぞれ見る立場によって少し意見が違ったが、その中で、不登校に対するゴールは何なのかという着地点は決めづらいという意見があった。ただ、子供によって何が一番良いのか、色々なパターンでサポートしていける仕組みができれば良いとグループディスカッションの発表の時に思ったが、グループの中で軸になる方の意見が少し強すぎて、そのグループの色が少し出ている、各グループの発表を聞くと、他のグループとは何か視点が違ったのかと思い、学校支援の方の意見やNPOの方の意見というのがそれぞれあったので、全部正解だとは思いますが、どれが正解なのか分からなくなったが、ネットワークづくりというスタートができて良かったと思っている。

(松山委員)

今回色々な立場の方々や、家族や子供の支援に関わる色々な立場の方々がこのように集うことができ、顔を合わせることができたということに非常に意義を感じている。このような機会が定期的にあると、いざという時のネットワークが作りやすいと感じた。

内容に関してもとても勉強になることが多く、その中でも私が強く感じたことは、これは月並みかも知れないが、不登校の児童や生徒、家族の支援には、多様なニーズが非常に求められるということで、むしろ個別のケアに地道に対応していくことが大事になるということだ。また、つながり辛さがあるということも良く分かった。

保護者などは、子供が不登校の状態にある時は、あまり外向きの気持ちにはなれないので、情報をキャッチしに行くことができないという話もあった。ちょうど私のグループに、自分の子供が不登校だった時期があったという保護者がいて、ようやく外に目を向けられるようになったのが、子供が少し前向きになってきた時、変化があった時だという話をされていた。そのようなところをどうつながっていくのか、非常に難しいと感じた。

また、行政の立場から何ができるのかというところでは、やはり個別ケースに対応していける強さを持っているのはNPO。比較的長い目線で個別の対応が細やかにしやすい民間団体や組織、個人なのかも知れない。

一方で行政ができること、行政が特に強みを持っているのはどんなところなのかと考えていたが、一つは情報の取得があるということだと思う。そもそも学校は子供と一番つながっているところなので、情報をキャッチし易いということもあるだろうし、行政としても福祉やその他の分野とつながっていくと、そのような少ししんどいご家庭をキャッチすることができるのではないかと考えていて、個人情報の壁があると思うが、何かそこをうまく対応していきながら、なるべくしんどい家庭を早めに見つけて、細やかな支援につなげていけるような情報共有の機会や方法があると良いと思う。

またそういった面の支援ができるのが、行政の強みなのではないかと感じている。その強みである、地域の個別の民間の支援というのが孤立しがちなのだということも感じた。どうしても終わりのない支援になってしまうし、時間も期間も無制限だということも、支援者の方々の負担だと感じたので、そういった部門がどうすれば孤立せず、行き詰まらないような方法があるのかということも考えた。

(倉持議長)

今回のフォーラムで3つの報告がとても良かったと思った理由は、最初に学校側の話をさせていただいて、それが色々なNPOや市民の方が話を聞く機会になり、逆に学校側の方が地域でこれだけ色々なことをやっているのだという話を聞く機会になったという意味で、出会うというか、近くにいて知らない、直接交流していない者同士が不登校や居場所、子供のほっとできる居場所というテーマのもとに来ていただけ、出会い、ディスカッションを通して話し合えたことがとても良かった。

学校側に子供劇場の話を聞いてもらえたのも良かったし、子供劇場の話は実際に地域で活動されている方たちが、自分の心や思いなどを引き合わせながら活動をされてきたという話もあった。

また、保護者など、支える側の目線の話が出てきたのもとても良かったと思う。福祉側の話では、福祉という目線で社会教育との近さや大事さのようなことについて、外側の隣接領域から話していただいたことに、私たち社会教育委員としてまた持ち帰れるものがあったというところで、関連領域とのつながる可能性を感じた。

自己評価が高めだが、登壇者の選択も良く、後半のディスカッションの時間配分も良かった。最後に他のグループが何を話したのかを聞くのも良かった。短い時間である時間を取っておくことによって、同じ話を聞いているのに、自分たちとは全然違う話をしているのだということを知れて良かった。

要するに、メンバーが違えばまた違うこと話しているという楽しさや可能性を感じたことが良かった。色々な方と話す、色々な分野や立場の方と顔を合わせ集う、そこがまず一つの魅力だったということ。教職員やNPOなどで分けず、当事者の方や学生もいて、色々な立場の人が集う場が、不登校支援ネットワークを活性化していく上で大事だと感じた。今後もそのような取り組みを継続すると、行政はニーズや、何ができるかというところなどが分かり、伝えることもできる。核となる情報を取得できると思う。

団体や活動されている方からすると、やはり自分たちの活動を発信する場、共有する場だと思っている。このようなことを継続してやることによって、当事者や保護者、関心のある関係者の方たちにも定期的に知っていただく機会となる。そのようなモデルを作ったので、今後やってみると良いというような提言ができるか。これで意義がとても良く分かったので、ぜひ継続をすると良いと思いますといった感じでまとめるのはどうか。

その他、敢えて課題を挙げるとしたら何かあるか。

(事務局)

今回は市議会議員の方も何名かご参加いただいた。そのうちのお一人から一般質問で、今回の開催意義についての質問を受けた。この実施報告書の後半の部分が概ね答えた内容になっている。今後の課題としては、今回スタートアップ的にネットワークづくりをやったところで、それを広げていくようなことと、これを継続させていくということがまずは課題なのではないかというところ。また、情報共有の方法やそのような場、色々な方や色々な立場の方が集う場を設けていく。設けていく場合には、誰がその発起人となるか、誰が企画運営の主体となり、窓口となってやるかというようなところなど、検討しなければならぬと感じた。

(倉持議長)

今回は社会教育委員の会議として継続テーマでやり、事務局に事務面では色々とサポー

トしていただいたが、その形で良いのか、ずっとそれを社会教育委員がやるわけでもなく、業務の一環でもないわけで、どのようなスタイルの運営が良いのかというところを考える。

(事務局)

そのところはここだけに止まらず、教育委員会全体で考えていくテーマなのかも知れない。ここで結論は出せないと思うが、ネットワークの場を作っていく上でそのような方たちが集まる場づくりとして、窓口や運営の担い手を検討していかなければならないと考えている。

(倉持議長)

持続可能なものにしていく上で、どう位置付けて、どう運営していくのが大事。私たちの任期の会議は今日が最後だが、まとめは簡単に要点を整理したようなもので、今日出てきたご意見や今の課題のところを少しまとめる。10月末までが任期なので、私が要点を整理したものを作り、メール審議のような感じで委員の皆さんに内容を見ていただき、ご意見をいただいて、10月中には報告書をまとめる。教育長からの委員への宿題が、このような感じでできたのご案内する形でいかがか。

(事務局)

ちなみに、今回のフォーラムのアンケートで、不登校支援の関係団体が分かるマップのようなものがあれば嬉しいというようなコメントも多くあったが、庁内のカウンターでこちらが配架されていた。ウイズアイが2025年9月に発行した不登校支援の関係団体が掲載されているマップで、実際にはもっとしっかりと紙で作成されている。やはり関係団体は西部エリアが多いが、本日は参考としてコピーをお配りした。

(倉持議長)

やはり将来的には西側だけではなく、東側にも広げたいと考えているのか。

(西田委員)

もちろんやりたいとは思いますが、こちらが東京都の休眠預金活用事業ということで、事業期間が3ヵ年、中間支援団体にNPO法人の「むすびえ」が入った助成金が取れて3年目ということで、その中での一つの成果物として作成した。また次にそれが取れないと動けないという現実もあり、それがNPOの辛さでもある。

(倉持議長)

デザインも子供が見やすい感じで、手に取ってみようかなと思うような、ポップな感じで良い。子供というか、漢字も多く保護者や大人向けだ。内容としては、学校関係や公共施設など、官民学が色々と混ざっていて珍しい。

(西田委員)

子供食堂が赤、福祉施設がピンク、公共施設が緑と色分けをしている。2年をかけて色々な大人たちが清瀬の地図に付箋を貼って、マッピングをしていくところから実施して、やっと形になった。

(倉持議長)

このように情報がマッピングされていると、取っ掛かりになりやすい。各小学校や集いの広場など、保護者が立ち寄るようなところに配布されている。

では、議題の1番目はそのような形で任期中に整理をする方向でよろしく願います。次に議題の2番目、清瀬市生涯学習基本方針の更新について、事務局より願います。

(事務局)

現在清瀬市の長期総合計画と教育マスタープランが同時並行で、令和8年度からの長期計画が進められている。計画の体系が提示されたので資料をご覧いただきたい。

まず、教育に関わる部分だが、これは清瀬市の長期総合計画の骨組みで、基本理念「ともに未来をひらき笑顔とみどりがあふれるまち清瀬」としている中の将来像とした、「子どもも大人も学びあい育ちあうきよせ」の中の「一人ひとりの学びと学びあいの充実」としていることが、教育委員会が関わっている部分となる。

社会教育委員の会議で議題としている生涯学習については、施策番号の123番の「生涯学習・文化・芸術・スポーツの支援」のように一つの施策としてまとめられている。

10年後の姿としては、「市民誰もが年齢や障害の有無に関わらず、生涯学習や文化・芸術、スポーツ・レクリエーションに親しむ機会を持ち、健康で心豊かな生活を送っています。また、そのような活動を通して地域で活躍する市民が増えています」と提示していて、これを目指すべき姿として、その実現に向けて施策推進の方向性として、どのようなものがあるのかとする3つの柱を立てている。

一番目が「世代を超えた学びの機会を提供します」で、これは生涯学習についての柱となっている。この基本方針が直接関わってくる一番の柱となるだろう。

続いて二番目が「市民文化・芸術の充実と発展を図ります」で、文化芸術に関わる施策、三番目の「気軽にスポーツ活動に親しめる機会を提供します」が、スポーツやレクリエーション振興に関わる施策の柱になっている。

この方向性に基づいて、この後作成していく実行計画に紐づけていく形となり、概念的なものをまとめたもの。このようなところを基本方針とどのように位置付けて更新していくのかを、改めて考えていきたい。

(倉持議長)

長期総合計画について、生涯学習に関連する大きな方向性のところでは、それほど大きく変わってはいない。やはり清瀬は人が大事ということで、教育、子供も大人も人を育てるということが、清瀬の大きな計画の中でかなり大事なところに位置づいているというのは、こちらとしては身の引き締まる思いと共に、共有できているという思いだ。

今日はこれまでの計画を踏まえつつ、今後何を足したり引いたりするかということについて議論したい。

(事務局)

今日の予定は施策の課題と、施策の方向性について意見交換を行い、答申案については正副議長と事務局で、ある程度作業を進めさせていただきたい。11月の次回の会議までに、新しい方針をまとめていきたいと考えている。

長期総合計画は前回は概ね継承しているが、ウェルビーイングの視点を新たに入れていくというところが違う。健康で心豊かな生活というところで、このウェルビーイングという視点を新たに付加している。世代を問わず、実際に学んだことやスキルなどを地域で還元でき、活用できる場を目指していきたいというところを、前回の長期総合計画より更に深めた形で設定をした。

(倉持議長)

ウェルビーイングと、学習成果の活用や学びと活動の循環といった観点を足すというような感じにしたい。大きな目標があると思うが、方針が「人づくり、つながりづくり、地域づくり」という3つの項目に分かれていて、その3つのところに更に施策の方向性が2つずつぶら下がっていて、合計6個の施策の方向性で体系が作られている。事務局としては、この枠組みそのものは基本継続するという方向で良いと思っているのか。

委員の皆さんからは、今までこれについての大きな意見は出なかったと思うが、そのような方向で良いかということと、もし、足したり引いたりするのならば、その施策の方向性のところや、その中身のところで変えていくかということになるのか。

9ページの施策の体系図を見ていただきたい。「人づくり」のところに、「市民が生涯にわたって学べる学習機会の充実」と「全ての市民が学べる多様な学習形態や情報提供の充実」という施策の方向性があり、「つながりづくり」のところに「学習した成果を活かす仕組みづくり」と「学びを通じた交流による仲間づくり」がある。「地域づくり」のところに「地域の連携や課題解決力の強化」と「清瀬らしさを活かした学びの活用と振興」がある。今話題になっているウェルビーイングの観点と、学習成果の活用や学習と活動の循環などの要素をどの辺りに入れるのか、ということについて少しご意見を伺いたい。施策の方向性を見て、ここはもう古いのではないか、もう少し形を変えたほうが良いのではないかということがあればご意見をいただきたい。

(事務局)

提示している施策の10年後の姿と方向性についてだが、パブリックコメントを募集している。もしかすると、この生涯学習に関わるところで市民の方からご意見をいただいた際に、何か変更するということもあるかも知れない。

(倉持議長)

「10年後の姿」で、「地域で活躍する市民が増えています」や「めざすべき姿の方向性」では「得た知識や技能を地域へ活用できる場の創出を図ります」と書いてあるので、創出を図らなければならない。その辺りを変えるときには少し意識しないといけない。

(松山委員)

ウェルビーイングの部分をもどのように基本方針に入れ込んでいくかという話に関して、例えば、基本方針の11ページに基本施策の方向性として「学習した成果を活かす仕組みづくり」という部分があるが、文章を読んでいると、「単に学習を個人の知識・教養の向上だけにとどめるのではなく、その成果を地域に還元することが重要です」とあり、人づくりが重要であると書いてあるが、なぜ重要なのかということは述べられていないように思われる。なぜ重要なのかといったところで、ウェルビーイングの向上、つまり、一個人

の幸福及び社会の幸福ということに向けて、このようなことが重要であるという形で、「なぜ」の部分も少し入れ込んでいくことができるのではないかと思った。

ウェルビーイングは第4次基本計画だが、文科省の教育振興基本計画がベースになっていて、日本版のウェルビーイングというキーワードがある。

日本版のウェルビーイングの場合は、特に協調性や社会貢献など、単に学ぶだけではなく、その社会貢献が同時に学んだことを成果として活かしていくことで、個人の幸福にも返っていくというその協調性やつながりなどということが、個人の幸福と非常に連関しているという欧米型の、能力を獲得するウェルビーイングとは少し違うという話が結構強調されていると感じた。

そのような意味では、清瀬のこの基本方針で目指すものとウェルビーイングは、実はほぼ一致している気がしていて、単純に表現の中にウェルビーイングという言葉を入れていけば、新しいことを言っているというよりむしろ、概念が提示されたただけなのかという印象を持った。既存の文章の中に、ウェルビーイング、個人の幸福、地域社会の幸福ということを目指す上で、このようなことが重要なのだという形で中に入れば良いのではないかと思う。

(倉持議長)

確かにこの「学習した成果を生かす仕組みづくり」のところの人づくり、つながりづくりと言っているところに、そのような公共性を作っていくようなことが、一人一人にとっても、社会的な役割を果たすということや、自分自身にとっても達成感や満足感など、そのようなところに自己肯定感としてつながるというところで説明するのに使うには、丁度しっくりくるところかも知れない。

(松山委員)

ここに個々に入れるのが良いのか、それとも冒頭のところでウェルビーイングというキーワードで、そのような方向なのだと最初にウェルビーイングの話をした上で、この後の話があれば何度も同じことを繰り返さなくても良いのかも知れない。

(倉持議長)

最初のところで少し概要的に考え方のようなことを関連深いと言った上で、松山委員がおっしゃったところに補強する形で、ウェルビーイングという観点からも、この学びを活かすということに意味があるのだということを説明するのに良さそうだ。

(松山委員)

日本版のウェルビーイングというのが、一般的な個人の能力獲得というウェルビーイングとは少し違う。文科省の生涯学習分科会が中教審から出している審議会の基本計画の中では強調されているので、その日本版のウェルビーイングというのがこういうものだと、まずはきちんと説明をし、清瀬のこの基本計画の中でもきちんと説明した上で、ウェルビーイングのイメージを統一して、その要素をちりばめていけば良いのではないか。清瀬でこれまで大切にしてきたことは、ウェルビーイングというある意味、とても惹きつける言葉で説明されたただけなのかというように理解している。

(倉持議長)

そのようなことで言うと、人づくり、つながりづくり、地域づくりの「地域づくり」のところに位置付けても良いのかと思う。何で地域課題をやらなければいけないのかというようなところで説明をするときに、良い理屈として成り立つような感じがする。

(松山委員)

確かにおっしゃる通り。負担でも義務でもなく、むしろ自分にとっての幸福にもつながるという説明ということか。ウェルビーイングはそのようなところで無理なく入れていけそうだな。

(倉持議長)

その他いかがでしょうか。

今のウェルビーイングと学んだことを活用するから少し離れるかも知れないが、地域づくりの中に「清瀬らしさを活かした学びの活用と振興」というのが入っている。この後半のところにを入れるのなら、清瀬らしさを活かし、想像し、作っていく側の話にした方が良い。

例えば、清瀬の歴史を子供や地域の人が学ぶというのは、どちらかと言うと最初の「人づくり」の方で、清瀬の施設を使う、清瀬の方々と一緒に行うというような、学習機会の充実に関わる話でもあるが、それを知った上で、清瀬の将来を担う担い手になっていくとか、その歴史を継いでいくとか、清瀬らしさを継承したり、創造したりしていく主体になるというか、そちら側の意義をもう少し地域づくりに位置づけるのなら、展開しないといけない。ここまで来てもったいない。

話は変わるが、その長期総合計画の会議に高校生が一人出ているのだが、しっかりと意見を言う。素晴らしいなと思う。自分の清瀬は緑が多いから、それをちゃんと活かすようなとか、それを守っていけるような施策を作らなければいけないなど、若い世代が言うことは、そのように意見を伝えることができる教育がなされているということだと思う。それをちゃんと受け止めて自分が担い手側になっていくような取り組みを、生涯学習としてやっていくことが大事だと思う。そのような関心をそのままにしないように、活動に取り組んでもらうことや、戻ってきてもらえるような学びを創出していかなければならいと思っている。

ぶら下がっている事業との兼ね合いもあると思うので、少し言葉だけでも変えるとしても良いのかも知れない。

(事務局)

3ページの市の関連計画で、基本方針の位置付けが書かれているが、やはり生涯学習はとても広い分野なので、私達の課で担当しているもの以外のものも当然含まれてくる。次期の長期総合計画やマスタープランに対して、この基本方針の位置付けもこのようなイメージになるのかと思っている。教育マスタープランでは、同じ社会教育施設である博物館が市長部局に位置付けされたことに伴い、教育マスタープランには博物館に関すること、伝統文化や文化財が含まれていない状況になっている。

この生涯学習基本方針は、市全体の生涯学習として捉えていただけたら「清瀬らしさ」のところで、市長部局でも所管している他の団体との連携や、伝統、文化芸術活動という

ところにもつながっていくのかと思う。また、歴史というところが、現行の教育マスタープランと分けて考えるような形になったので、こちらは総合的に考えていければ良いと事務局としては考えている。

文化芸術を一つ取っても、私たちは清瀬けやきホールを主管として担当しているので、パフォーミングアーツや文化ホールのような施策や運営については当課が美術系、展示関係の文化芸術に関しては博物館が所管であるが、これは私たち担当としても、普段の仕事をしながら非常に住み分けが難しいと感じているところである。

今は組織上立て付けでそうになっているが、生涯学習を考える時は、その組織の枠に捉われず考えていけたら良いと思っている。

(倉持議長)

国が文化庁にして、このように分けてしまったので難しい。行政の割り振り上は少し違うかも知れないが、生涯学習は色々なものを含めているので、それが関連するということが分かるようにしてもらいたい。

(事務局)

地域市民センターもそれぞれで文化活動の拠点となり、自主事業という形で色々な講座などを開いているが、それらも所管が分かれているという現状がある。

(西田委員)

基本方針を見ていると「づくり」が多い。方針には人づくり、つながりづくり、地域づくりがあるが、10ページには健康づくり、生きがいづくりがあり、11ページには仲間づくり、仕組みづくり、とあり、多く感じる。それに目がいてしまい、とても抽象的で具体化していないと感じてしまう。全部目標だから良いのかも知れないが、そのためにじゃあどうするのか、ということが一つ盛り込まれると良いと思う。

この前のようなネットワーク・フォーラムを作るのも、一つのきっかけだと思うが、そう考えたらウェルビーイングの視点というのも全体にかかってくると思う。先程の松山委員の話を聞いて、この「清瀬らしさ」のところにしたら、より清瀬らしくなるのかという気がした。特色のある地域づくりの、その特色が少し見えてこない。人によってイメージするところが違っているのかも知れない。

(事務局)

この基本方針は、現行の長期総合計画と教育マスタープランが走り始めてから、令和3年度に改めて作ったものなので期間が5年になっている。今期は同じタイミングで作っているの、合わせて10年にするのか、それとも5年後ぐらいに状況が変わってきた時に更新するのかというようなところもご意見を伺いたい。

(倉持議長)

合わせて10年というロングスパンで考えている。そう考えると、例えば特色というのも、この10年は特色のどこに力を入れるのか、少しターゲットとして捉えても良い。あれもこれもではなく、例えば5年後ぐらいに見直すとしても良いのかも知れないが、今の

清瀬で何が特色かとか、何に力を入れるかというところを少し言葉出ししていくのも良いのかも知れない。

(事務局)

実行計画についてはローリングをするので、新しい事業が出てきたらどこに位置付けるのかという形で、きちんと反映させている。その方針そのものを5年などの単位で見直すかどうかということになると思う。

(倉持議長)

これは計画だから目標がある。目標があるということは、どれぐらい達成したのかなど、目標に関して成果と課題を見ていくことが次のプロセスにつながっていく。期限がどれぐらいあるのかを考え、検討した方が良い。5年後に定めるのか10年後に定めるのか。

この計画ではどのような重点を当ててそこをやっていくのかというようなことが、もう少し出てくると計画としてはより具体化していくときの取っ掛かりになり易い。先程の登校支援などもそうだが、子供の居場所づくりに関する行政、市民、NPO、民間のネットワークの構築などをしていくというようなものがあると、かなり具体的する。そこまで具体的にするのか、というのはあるのかも知れないが、主体や方向性はある程度示せるから、それに向けて年度毎にどういうことをやっているのかという実態は作り易く、数値化もし易い。

(渋谷委員)

話は戻るが、先ほど松山委員が言っていたウェルビーイングは、基本方針の目的の中に、こういうふうにやっていきますよというようなことは入っているのか。

(事務局)

清瀬における現状と課題を策定する目的として入れると思うので、ウェルビーイング日本版の話や、最近の生涯学習の情勢などをここへ入れられると良いと考えている。

(渋谷委員)

Society 5.0もだんだん古くなってきている。それであれば、こういうことを入れていきたいという観点を踏まえて全体の構想をして入れていった方が良いと思う。それぞれのところに入れるよりは、最初に入れて、先ほど倉持議長が言ったように、途中経過の評価をする時にはウェルビーイングのことについても幸福度ではないけれど、そのようなことについて、このようにして高まってきたというような、市民のアンケートや子供たちのアンケートなどを取った方が良いと思う。文章を見ると、やはり市民の意識を何か変えていきたいというところがあるのかと感じた。市民が地域で活躍したいとか、そういった人材になりたい、地域に活用していきたい、というそのような意識を膨らませて、まずはそのために行政としてどんな場を用意していくのか、そのような場があるとか、保障してあげるとするのが、今度の取り組みに入っていくのかと思う。その意識を高めるために、学校でどうしていけばよいのか、社会の中でどうすればよいのかなど、何か人材育成や人づくりのところに結構な力を入れていると感じている。

(事務局)

今回はソフト面が重視されている。少子高齢化が進んでいる中で、市民が生活をしていくために、清瀬市が「持続可能な」という考えがあるのだと思う。

長期総合計画の全体の目的はまだ出てきていないが、そういった色々な情勢を踏まえ、このような施策や将来像というのが立てられているのだと思う。

(渋谷委員)

それで清瀬の特色となった時に、この意識を作っていくことから、清瀬市はこんなに立派な市民なのですと自慢ができる、そのような清瀬の市民づくりが大きな特色になってくるのかと思う。そこで更に、緑がたくさんあり環境保全をしている、不登校支援で誰一人取り残さないでこんなことをやっているといった具体的な特色が出てくるのだと思う。

(松山委員)

不登校の話もどうやって入れ込めるかと考えていたが、活躍できるとか、人づくりの部分はとても大事で、意識を高めるなどの雰囲気があると良い。どちらかというと、元々非常に前向きな状況にある人を、よりその人が能力や個性を発揮できるような場や環境を整えていくという印象があると思う。その一方で、少ししんどい方たち、孤立してしまいがちな方たちが、助けてと言えるような環境を育んでいくこともやはり大事な気がしている。マイナスからゼロになって初めて、そこで学ぼうと前向きな気持ちが起きてきて、プラスになっていくという部分があると思うので、特色という意味で言うと、頼り合えるような関係が学びを通じて育めるような地域づくりなど、何かそのような雰囲気があっても良いのかと感じた。

先ほどのウェルビーイングの話で言うと、協調的幸福というのが日本版のウェルビーイングの大事な部分だと思うので、協調性や協調的な幸福だからこそ、先ほどのネットワークやつながり、頼り合える関係など、孤立しないそのような地域を学びの機会を通じて育んでいくという福祉の観点だけではなく、生涯学習の観点からもそのような地域を育んでいくという視点が入れれば良いと思った。

(渋谷委員)

今の松山委員の話だが、マイナスではないが、やはりそのような子たちもいる。それは誰もが笑顔にしていけるというこの基本理念の「笑顔」に色々入ってくると思う。色々な悩みを抱えている方々でも、少しは笑顔になれるようにしていくことなどを踏まえて、施策として色々入れていけたら良いと思っている。

逆にやる気のある人たちだけが市を引っ張っていくわけではないので、市民みんななので、そこを印象付けたい。

(倉持議長)

そう考えると、横展開というか、必要な方に届ける、必要な方々がその機会にアクセスできるような働きかけをする必要がある。もしかしたら自分で自覚をしているかどうかに関わらず、子供や大人、退職した後にはやることなく家に引きこもっている方、子育て中で孤立を感じている方々などに届ける。

(西田委員)

この目的にある「市民一人ひとりが社会に位置付き、豊かに生を全うすること」というところがとても重要だと思っている。何もしたくない人もいるし、今日生きるのが精一杯の人がたくさんいる中で、その人たちにいきなり社会参画と言っても難しいので、やはり孤立しているのなら、つながっていく。何かお困り事があるのなら、その困っている状況を解消できる制度を紹介できる知識を持つなど、本当に一つ一つの積み重ねだと思う。

先日ある小学校の校長先生が、小学校の中でのキャリア教育の話をウイズアイ主催の講演会として開催したが、やはり小学校もとても変わってきている。幸福度なども測られていて、清瀬はすごいと思った。そのようなことも上手く盛り込めたら良いと先程からずっと考えていたが、良い文言が出てこない。不登校というワードに囚われすぎて、大人たちが不登校は悪のようなレッテル張りをしてしまうと、子供たちもしんどくなるから、彼ら彼女たちの社会参画の場のようなものが何か用意できると良いと思う。そういったことを手伝う高齢者などが、それを生きがいにできたら良いと常に思っている。

(倉持議長)

最初の方針や計画全体の目的にあたるところは、かなり丁寧に作った方が良さそうだ。

(西田委員)

このSDGsなども2030年までのとなっているので、10年になると途中になり、5年にするのかということも含め、今の状況に更新しないといけない。

(松山委員)

実際にこの間のネットワーク・フォーラムでも、既に色々なことをされている方は清瀬にたくさんいる。皆さん頑張っておられる一方で、行政が全てを担うのは財政問題などの関係からも、やはりこの先現実的ではない。これは清瀬に限らないことだと思うが、もっと主体的に担い手が増えていくことが、この先の理想だと思う。

Societyなど、色々な言葉が出てくるのでこのような計画はどうしても硬い文章になり難しくなりがちだ。皆さんに読んでもらえる計画になると良いと思っている。特に冒頭の文章などは、今頑張っている色々な方々など、それこそ今しんどい思いをしている子供たちや大人、そのような方々が読んで応援されるような、何かメッセージ性のある計画にしたらどうかと思うが、斬新過ぎか。それを基に、自分たちが何をしようかと考えられるような、応援されるような計画になると良いと感じている。地域づくりのところに、「主体的に担っていく方が一人でも増えたら」という文言が入っていたら、それを読んだことで、自分も少しやってみようかなと思えたり、頑張ってきて良かったと思えたりするなど、何かそのようになってくれたら良いと思っている。

(倉持議長)

自治体によってはコンパクト版や概要版でパンフレットのようにして、イラストや写真などを使用し、説明を分かりやすくして多くの市民に読んでもらえるようにしているところもある。大体このような大規模な計画などは、自治体はコンサルタントなどに頼むことが多いが、コンサルタントに頼むと大体どこも同じような計画になってしまう。ちゃんと自前で作るのだから、個性をどんどん出して良いと思う。先ほどの松山委員からのご意見

なども良いアイデアだと思った。

それこそ清瀬はコンパクトシティなどと謳っている。確かに小さな町だけれど、大体揃っていて住みやすい。若い世代や子育て世代がたくさんいて、やはりそこが特徴で、そこに誇りを持って、それを活かした生涯学習の計画にすると考えると大変興味深い。これだけ小さな町なのに市民の皆さんが活動し、NPOもたくさんあって、文化もスポーツも愛好し、子供支援も色々な方たちが色々なところでやっているというのは、なかなか素晴らしいことだと思う。そのような方を増やしたりつなげたりするところにエネルギーを注ぐ計画にし、当事者性を持ってもらえるような計画にすることが良いと考えている。

連携や協働といったネットワークにすることで、行政が必要なところは行政がバックアップやサポートをしたり、運営をしたりするけれど、市民に十分その力があるのだから、自立して活動するところはきめ細やかにそれぞれ活動していただいて、でもそれを丸投げするのではなく、学びというところでそれをつなげていけるような、そのようなビジョンを描けると、このコンパクトシティらしさがそこに反映できると思う。

ただこれを実際に文字にするとすると、なかなか大変なこと。今の任期は10月末までで、この議事については次の期に引き継がれていく。

これまで色々とお出しいただいたアイデアやご意見等を踏まえて、次期計画の構成はそれほど変わることは無さそうではあるが、計画全体の方向性や目的をしっかりと共有しつつ、それを市民とも共有できるような形で、なるべく分かりやすく作っていく。それと共に、情報や理念を少しバージョンアップして、今の時代に合わせたものにし、清瀬らしさをもう少ししっかりと出していく。このあたりの意見交換ができたと思う。

この議題の2個目は以上ということで、議題3個目の報告を事務局よりお願いする。

(事務局)

10月と11月が任期の区切りとなる。任期の継続についてお願いをさせていただきたい。

(倉持議長)

委員の皆さん、事務局より次期の打診をいただいたのでそれぞれ受け取っていただき、これから最終確認があると思うので、個別にお答えいただきたいと思います。

その他はいかがか。

(事務局)

既にメールでお送りしているが、今年度の第4ブロック研修会について、任期の最終日である10月31日に、西東京市の田無庁舎で開催される。事務局から出欠確認をお願いしているが、まだ返事をいただいている方いない方もいるが、いかがか。

テーマが去年の流れとは少し変わっていて、文化財を活かして地域の方々とどのような活動をしていくかというような事例紹介だと思っている。開催日は平日。締め切りまではまだ余裕があるので、皆さんご予定が分かれば教えていただきたい。齊藤副議長からは参加の意向を伺っている。

(倉持議長)

私も今のところ参加できる。研修は市役所で行い、その後に遺跡公園の見学があるとの

こと。玉置委員はいかがか。

(玉置委員)

都合が付くので参加する。

(事務局)

また、現在予算要求をしているところなのだが、来年度の話として、関東甲信越社会教育研究大会が群馬県で開催される。高崎市で開催され、1日目が全体会、2日目が分科会となる。各地域から発表者が登壇されるようなのだが、もし、今の段階で行ってみたいという方がいれば、こちらの旅費を計上しないといけない。

ちなみに今年度の開催地は横浜だったが、皆さんのご都合が合わず手をあげていただいていた。来年は群馬県ということで、1日目だけなら日帰りで行けるが、2日目の分科会にも参加となると、早めに予算要求をしなければならないためご意向を伺った。

(倉持議長)

内容を見ると、研究討議の視点にウェルビーイングが出てきている。面白そうなテーマではある。ご関心のある方はお知らせください。

その他、委員の皆さんから何かご意見ご質問等はあるか。

それでは以上を以て、今年度の対面での任期中の会議は以上となる。直ぐに新任期が始まり、先ほどお伝えしたが、メールでご確認いただくこともあるので、引き続き、10月いっぱいまでよろしくお願いしたい。

それでは、第3回清瀬市社会教育委員の会議は以上とする。